

[論文]

ラオス語初級会話学習書の比較研究 －文化的社会的特質に着眼して－

Comparative Study of Lao Elementary Conversation Textbooks － Focus on Socio-cultural Characteristics －

鈴木 玲子
Reiko Suzuki

東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies (3-11-1, Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, Japan)

要旨:本稿は、初級ラオス語学習のためのラオスの学習書と日本の学習書の会話部分を比較検討し、どのような社会的文化的な特質への着眼点が必要か、ということをも明らかにすることを目的としている。社会文化的知識や異文化適応技能を身につけることは、コミュニケーション能力の獲得に通じており、広い意味での言語技能を身につけることであると言える。5冊の学習書の検討をとおして、1)異文化コミュニケーション能力の指標は、さまざまな教育者の立場から考えるべきであるということ、2)ラオス語学習書においてよく使われる表現は、ラオスの社会的文化的特質と関係がある、という結論が導き出される。

Abstract: The purpose of this article is to clarify what socio-cultural characteristics are necessary for Lao language learning at the elementary level by comparing Lao conversational parts of Lao elementary textbook and Japanese textbooks. It is elucidated that acquiring socio-cultural knowledge and cross-cultural adaption skills are closely related to acquiring the communication skills, and it corresponds to acquiring the language skills. On the basis of the analysis of five textbooks, it can be concluded that; 1) the assessment of cross-cultural communication ability should be considered from the standpoint of various instructors, 2) the commonly used expressions in Lao textbook are related to Lao socio-cultural characteristics.

キーワード: 初級会話, 学習書, 社会的文化的特質, コミュニケーション言語能力

Keywords: Elementary Conversation, Textbooks, Socio-cultural Characteristics, Communicative Language Competence

1. はじめに

ラオス語¹の学習書は他の東南アジア諸国で話されている公用語の学習書に比べて極端に少ない。現在、日本語で書かれ、一般書店で入手できるラオス語学習書は語彙集を除くと4冊²である。このような現状を踏まえ、本稿ではまず、ラオスの最高学府であるラオス国立大学の外国人留学生のための初級教科書と日本で使用されている学習書の会話部分を比較する。そして両者の異同を検討し、コミュニケーション能力に関して、初級ラオス語学習ではどのような社会的文化的な特質への着眼点が必要か、ということをも明らかにする。

¹ 言語学的には「ラオ語」ということが多いが、本稿では一般書や教育言語の呼称として筆者の本務校である東京外国語大学で使用されている「ラオス語」を用いることにする。

² 再版の予定がないものも含むので、在庫があれば入手可能である。

2. ラオス語学習書

2.1. ラオス語で書かれた学習書

ラオスの書店にはラオス語学習書が数冊市販されているが、主に英語で書かれたものである。ラオス語で書かれた本格的な学習書は下記の3冊であり、これらは全てラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科教員が共同で執筆と編集を行ったものである。

① Dept. of Lao language & Culture (2019) /phaasaalaaw baep lenglat samlap khon tang patheet/ Faculty of Letters, National University of Laos

② Dept. of Lao language & Culture (2018)/phaasaalaaw samlap khon tang patheet : kaanfang, kaanwaw, kaankhian, kaanaan/ Faculty of Letters, National University of Laos

③ Dept. of Lao language & Literature (2016) /phaasaalaaw samlap khon tang patheet/ lem 1-3, Faculty of Letters, National University of Laos

①から③は、いずれもラオス国立大学文学部の/pīikiam/と呼ばれる入学準備コースで使用されている。これらは対象者や学習期間が異なる。①は、短期間でラオス語を習得したい外国籍の者で、大学の受講条件を満たす者が対象者である。主に NGO・NPO の職員や短期留学生が多いそうである。学習時間合計 90 時間のラオス語速習クラスで用いられている教科書である。②は、1 年後に同大学の正規学生として在籍する予定の留学生が対象者である。実際には中国やベトナムからの国費留学生が大半を占めるが、日本人が在籍することもある。本書は「聴く」「話す」「書く」「読む」の 4 技能を意図して作成された「聴解」「会話」「作文」「読解」の 4 冊を 1 セットとして前期と後期で学習する³。各学期とも聴解のみ週 2 コマ、合計 64 時間で、会話、作文、読解編は週 3 コマ、合計 96 時間かける。なお、1 コマは 2 時間である。③は、中国雲南省にある Honghe University(紅河学院) からの留学生が対象者である。学生たちは中国本国でラオス語を 1 年間学んだあとにラオス国立大学に在籍し、第 2 巻と第 3 巻を 9 か月かけて学習し、帰国後、本クラスで学んだ単位を卒業単位に組み込むという形をとっている。

初版本から 2019 年版の編集・改訂まですべての学習書に関わってきたセーンファー・ホーラーヌパー氏によれば、いずれもよく使われる基本的な表現と初級文法を身につける目的のほか、ラオス社会や文化への理解を深めることを配慮して編纂したということである⁴。

①から③のうち、初級会話が学習教材として用いられている①と②「会話 1」の 2 冊を本稿で検討する。これら 2 冊の構成は表 1 のとおりである。

表 1 ラオ語で書かれた会話学習書

	ページ (サイズ)	構成
①	74 (A4 版)	はじめの 5 ページにラオス文字と発音記号の対応表があり、会話編と続く。会話は 12 課から成る。各課の構成は、テーマに即した単語・熟語・例文→会話スキット→会話の新出単語→練習→文法→宿題の順となっている。
② 会話 1	60 (A4 版)	第 1 課はラオス文字と数字の発音練習で、第 2 課から第 25 課が会話編である。各課の構成は、1~3 つの会話スキット→会話の新出単語→テーマに即した単語・熟語・例文の反復練習や作文→会話空欄補充問題・応用練習→宿題の順となっている。

³ 年によっては各々を第 1 巻、第 2 巻にわけて前期と後期で使用することもある。

⁴ /pīikiam/入学準備コースについてはラオス国立大学文学部教員のマイポーン・ドゥアンパシー学科長、セーンアー・ホーラーヌパー前学科長から詳細な情報をご教示いただいた。記して心よりお礼申し上げます。

2.2. 日本語で書かれたテキスト

現在、日本語で書かれ、一般書店で入手できるラオ語学習書は語彙集を除くと4冊であると第1章で述べたが、本稿ではこれらのうち、会話が初級の学習教材として用いられている下記の①②、さらには③として東京外国語大学言語モジュール会話編を検討する。なお、この③は書籍ではなく、ネット上に公開されている学習教材である。

- ①吉田英人(2012)『ゼロから話せるラオス語』三修社
- ②鈴木玲子(2019)『ニューエクスプレスプラス ラオス語』白水社
- ③東京外国語大学言語モジュール (2003)『ラオス語会話モジュール』東京外国語大学
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/lo/dmod/>

①②はいずれも日本人で初めてラオス語を学ぶ者を対象としているが、ある程度、語学学習を経験している高校生相当の年齢以上の者でないと理解しにくい。③は初めて語学を学ぶ大学生や社会人を対象としている。各学習書の構成は表2のとおりである。

表2 日本語で書かれた会話学習書

	ページ数 (サイズ)	構成
①	157 (A5版)	「覚えるフレーズ」「ダイアログで学んでみよう」「発音と文字」「文法」「ヴィジュアルラオス語」「単語リスト」から成る。「覚えるフレーズ」では基本的な表現を20挙げている。「ダイアログで学んでみよう」では20課の会話のスキットを通して語彙や文法を学ぶようになっており、「会話→キーワード→いろいろな表現→ポイント」で構成されている。「発音と文字」で発音と文字の読み方を学び、「文法」ではダイアログでの文法事項をあらかじめ14項目に分けて説明している。「ヴィジュアルラオス語」ではイラストと共に8つのテーマの単語を紹介している。巻末に所収の単語リストがある。なお、本書はシリーズものであるため、他の言語のゼロから話せるシリーズとほぼ同じ構成をとっている。
②	168 (A5版)	「文字と発音」「会話20課」「練習問題」「単語力・表現力アップ」「単語リスト」から成る。「文字と発音」で発音と文字の読み方を学ぶ。「会話」では、20課の会話のスキットを通して語彙や文法を学ぶようになっており、「会話→重要表現・熟語→新出単語→文法説明」で構成されている。2課ごとに「練習問題」と「単語力・表現力アップ」がある。さらに巻末にスピーチ集、文法チェック問題、短い読み物が載っている。巻末に所収の単語リストがある。なお本書はシリーズものであるため、他の言語のエクスペンスシリーズと全く同じ構成をとっている。
③	http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/lo/dmod	東京外国語大学21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」の成果物として開発したネット上の言語教材。ラオス語は「発音モジュール」「会話モジュール」「文法モジュール」「語彙モジュール」の4種類がある。「会話モジュール」にはすべての言語に共通の40の場面が設定されている。2020年12月現在、「教室用」「学習者用」「学習者用new」の3パターンが公開されており、音読やロールプレイなど、学習者の目的に応じたスタイルで会話練習ができるようになっている。

3. 比較調査

本章では、2.1と2.2で挙げた合計5冊のラオ語学習書の会話の内容を比較する。まず、3.1で各課のタイトルを示し、3.2で会話の場面、3.3で言語行動のタスクについてみていく。

5冊の書籍名を以下に再掲する。便宜上、今後は書籍名ではなく、各誌の冒頭の数字を使用する。黒地がラオス語で書かれたもの、白地が日本語で書かれたものである。

① /phaasaalaaw baep lenglat samlap khon tang patheet/ (外国人のための速習ラオス語)

② /phaasaalaaw samlap khon tang patheet : kaanwaw 1/ (外国人のためのラオス語 : 会話1)

① 『ゼロから話せるラオス語』

② 『ニューエクスプレスプラス ラオス語』

③ 『ラオス語会話モジュール』

3.1. 各課のタイトル

各学習書における各課のタイトルは表 3 のとおりである。

表 3 各課のタイトル

	①	②	①	②	③
1	挨拶	文字とラオス数字	どこへ行きますか？	こんにちは	挨拶する
2	知る・わかる	挨拶	私の先生です	どこへ行くのですか？	感謝する
3	人物についてたずねる	知る・わかる・人物についてたずねる	お名前は何ですか？	これは何ですか？	注意をひく
4	物・人・動物について問う	物・人・動物について問う	いつラオスにいらしたのですか？	この方はどなたですか？	自己紹介する
5	時・季節・天候	乗り物と場所	トゥクトゥクに乗る	おいくつですか？	謝る
6	レストラン	レストラン	これは何ですか？	いくらですか？	人にものをあげる
7	店	市場	ドルで買えますか？	とても暑い	さよならを言う
8	市場	時・季節・天候	英語で話しましょう	何時ですか？	金額についてたずねる
9	乗り物	体と健康	何か飲みませんか？	いつですか？	経験についてたずねる
10	病院	観光	タートルアンはどこですか？	あります	予定を述べる
11	ホテル	ホテル	一緒に食事をしませんか？	なぜですか？	程度についてたずねる
12	観光	私の家	何時に待ち合わせますか？	できますか？	時間についてたずねる
13		ラオス人の家族	頭が少し痛みます	もうご飯食べた？	数字についてたずねる
14		ラオス国立大学	シンダートを食べませんか？	ビールを1本ください	手段についてたずねる
15		入学準備コースのクラス	ルアンパバーンにいったことはありますか？	忘れないで	能力についてたずねる
16		郵便局と通信事情	飛行機で行きます	無理やり飲まされました	場所についてたずねる
17		銀行	何泊しますか？	より難しいです	順序についてたずねる
18		病院	何かおすすすめのお土産はありますか？	あなたにあげます	意見を述べる
19		スポーツ	忘れ物をしました！	おもしろそうですね	好きなものについて述べる
20		交通事情	またお会いしましょう！	もうすぐ帰ります	好きな行動について述べる
21		首都ビエンチャン			順序について述べる
22		田舎と都会			状況についてたずねる
23		ラオス料理			条件をつける
24		社会のマナー			比べる
25		ルアンパバーン			提案する

③の続き

26	理由を述べる	27	依頼する	28	例を挙げる	29	妥協する
30	許可を求める	31	しなければならないと言う	32	禁止する	33	指示する
34	しないでくれと言う	35	しなくともよいと言う	36	招待する	37	助言する
38	要求する	39	希望を述べる	40	人を紹介する		

①は、語彙リストを最初に挙げている構成のためか、語彙カテゴリーがタイトルになっているものがほとんどで、第6課、第10課、第11課は会話をしている場所がタイトルになっている。②も①と同様の視点でタイトルがつけられているが、第12課や第25課のようにわずかではあるが、会話の題材がタイトルになっているものもある。一方の①と②は、会話の登場者の発話そのものがタイトルになっている。③は、言語行動のタスクがタイトルになっている。これは東京外国語大学の21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」の活動の一環として、当時の専攻語26言語⁵全てに対して統一した言語行動タスクを設定し、それをタイトルにしたからである。これらのことから会話の内容を直接的に反映したタイトルは①と②であると言ってよいが、②は短く、会話の場面がわかりやすいのは①であろう。また、内容をみると、①も②もタイトルの文は会話スキットの中で日本人（あるいはメインキャスト）が最も伝えたい一文であると言える。

3.2. 会話の場面

各学習書における場面については、場所、登場者の属性と互いの人間関係を比較する。

①②は1つの課に付、会話スキットが1~3つあるので、場面も複数設定されている場合がある。特に前半は短い会話が複数個挙げられており、後半にいくほど会話の長さは長くなり、1つのみとなっている。一方の①②③は1つの課に付、会話スキットは1つのみとなっている。

各会話の場面は表4のとおりである。なお、登場者のL, J, Fは順にLがラオス人、Jが日本人、Fが両国以外の外国人を意味する。また、場所の記載がないものについては、場所の指定が読みとれないためである。

表4 会話の場面

	①	②	①	②	③
1	1.初対面のFとLが挨拶し、別れる 2. 知人同士のFがLと久しぶりに会って挨拶し、別れる	文字とラオス数字の発音練習	空港で旅行者Jが従業員Lに挨拶し、行き先を告げる。	初対面のLとJが挨拶、氏名を述べる。	友人同士のL1とL2が久しぶりに偶然会って挨拶する。食事に誘う。
2	1.FがLに初対面の挨拶と自己紹介をする。 2.Lが友人Fに既婚か未婚かをたずねる。	1-3.全てLとF, 知人同士で、1.一般的 2.親しい間柄 3.公式的な挨拶のやりとり。近況や健康状態をたずねる。	Jが知人L1に氏名を確認し、L2は誰かたずねる。L1はL2について自分との関係を伝える。	Lと友人Jが偶然路上で出会い挨拶、お互いの行き先をたずねる。食事に誘う。	喫茶店でJが友人Lにラオス料理をご馳走してもらったお礼とその時の感想を言う
3	1. 学生Fが教員Lに初対面の挨拶をし、教員L、氏名、職業、出身などをたずねる。 2.初対面のLがFに氏名やラオス滞在の目的、宿泊先などをたずねる。	1.FがLに初対面の挨拶と自己紹介をする。 2. 学生Fが教員Lに初対面の挨拶をし、教員L、出身国、居住地などをたずねる。	初対面のJとLが互いに氏名や友人関係や出身地をたずねる。	Jが市場で初めて見るモノを知人のLにたずねる。	田園風景の中でJが友人Lに初めてみる水牛についてたずねる。
4	1.Lの家で友人Fがトイレの場所をたずねる。 2.Lと友人Fが互いの家族について話す。 3.Lが友人Fに自分の家について紹介する。	1.Fが友人Lに兄弟について人数や職業をたずねる。 2.Fが友人Lにラオスにいる野生/家畜動物についてたずねる。	Lが知人Jにラオスに来た日や宿泊先をたずねる。	L1が家族写真を友人L2に見せて家族について話す。	歓迎会でラオスに留学に来た大学生Jと大学生Lの初対面の挨拶と自己紹介
5	1.Lが友人Fにラオス語の時間割や授業についてたずねる。 2.Lが友人Fに自国の季節、気候や時差についてたずねる。 3.Lが友人Fに今日の	1.Jがラオスに到着し、空港で見知らぬLとラオスに来た目的や観光地への旅行計画につい	路上でJがトゥクトックに乗ろうとして、ドライバーLに行き先を告げ、値	L1が年上の知人L2に年齢をたずねる。職業を確認する。	待ち合わせ場所でJが約束の時間に遅れて友人Lに謝る

⁵ 現在は27言語。

	気温について話し、遊びに誘う。	て話す。 2.Fが友人Lに南ラオス旅行の相談をする。	段交渉する。		
6	1.Fがレストランで店員Lに料理を注文する。 2.Fと友人Lがレストランで料理を注文する。 3.Fが店員Lに料理のテイクアウトを頼む。	1.Fが食堂でフォーを店員Lに注文する。 2.友人JとL1がラオス料理レストランで店員L2に料理を注文する。Jがご馳走し、L1がお礼を言う	Jがお店で店員Lにシルクの布や店に置いてあるものをたずねる。感想を述べる。	Jがお店でシンを買うために店員Lと値段交渉をする。	大学でJと友人Lが共通の友人の誕生日プレゼントをあげる相談をする。
7	1.Fがショッピングモールに洋服を買いに行き、店員Lと値段交渉をする。 2.Fが寝具売り場の行き方を店員L1に聞き、その後店員L2と寝具についてやりとりをする。 3.Fが電気屋に行き、店員Lと値段交渉や購入後の配達について話す。	1.Fが市場で肉を買うために売り子Lとやりとりをする。 2.Fが市場で野菜と果物を買うために売り子Lと値段交渉をする。	Jがお店で店員Lに楽器ケーンを買うために値段交渉し、外貨が使えるかをたずねる。	室内。JがLに暑いのが好きか気持ち持をたずねる。	喫茶店でJが友人Lに帰国を前にお礼と別れの挨拶を言う
8	1.Fが市場で肉を買うために売り子Lとやりとりをする。 2.Fが市場で果物を買うために売り子Lと値段交渉をする。 3.Fがラオス料理を作るために友人Lに材料などの確認を求める。	1.Lが友人Fにラオス語の時間割についてたずねる。 2.友人LがFにラオスとの時差や気候についてたずねる。	友人LはJにJの両親はラオス語ができるかをたずねる。Jは英語で話すことを提案する。	室内。友人LがJにルアンパバーン行きの手段や時刻などの予定をたずねる。	Jが店に洋服を買いに行き、店員Lに値段交渉する。
9	1.Fがタクシーに乗ってバスターミナルに行くためにドライバーL1と値段交渉をする。到着後、窓口で従業員L2にバスの情報を確認し、切符を購入する。 2.警察官Lが運転中のFに免許の確認をする。 3.Fが郵便局に荷物を出しに行き、郵便局員Lが送付方法を説明する。	F1が同じ国の友人F2に昨日の授業の内容をたずねる。F2はF1に身体名称や栄養素と食べ物に関する単語を説明する。	レストランでLが友人Jに飲み物を勧め、店員に注文する。	Jが飛行機のチケットを予約するためにカウンターで従業員Lと日時、時刻、人数についてのやりとりをする。	Jが友人L1とレストランに行くとうエイターL2がテーブルまで案内する。JはL1に来たことがあるかどうか経験をたずねる。
10	1.Fが病院に診察に行く。病院の窓口L1、医師L2と病気や薬についてのやりとりをする。 2.Fが友人の見舞いに病院に行く。病院の窓口L2に病室を聞き、友人L1を見舞う。 3.Fがクリニックに行き、医師Lと病気について話す。	Fがルアンパバーンのホテルにチェックインし、ホテル従業員Lに同地の観光地やツアーについてたずねる。	友人LがJにターゲットの場所を説明する。	寺院近く。早朝のおばあさんLの喜捨の様子を述べる。	L1が友人L2に電話で予定を聞き、結婚式に誘う。
11	1.Fが電話でホテル従業員Lにホテルを予約する。 2.Fが従業員Lに換金できる場所や方法をたずねる。 3.Fが従業員Lに鍵やホテルのサービスをたずねる。	Lが上司Fのために電話でホテルの窓口Lに部屋を予約する。	Jが友人Lを食事に誘い、お互いに何を食べたいか情報交換する。	電話でLが友人Jを結婚式に誘う。J、謝罪し断る。	大学でJと友人Lが日本語やラオス語の難易度について意見を交換する。
12	1.Fがルアンパバーンのホテルにチェックインし、従業員Lに同地の観光地やツアーについてたずねる。 2.Lが友人Fを自宅に招待するために待ち合わせする。 3.Fが友人Lの家を訪問し、食事をしながら談笑する。	Lが友人Fに自分の家について紹介する。	Jは友人Lと一緒に市場へ行くことを依頼し、待ち合わせ時刻を相談する。	インターネットカフェでJが店員Lにサービスなど、何ができるかをたずねる。	L1が友人L2にアメリカ出張について出発日や所要時間、目的などについてたずねる。
13		Fが友人Lの家を訪問する。LはFに自分の家族を紹介する。	室内。具合が悪いJが友人Lに症状を説明し、買い物頼む。	待ち合わせ場所でLが友人Jにラオス料理に関する経験を聞いた後、食事に誘う	Jが友人Lの家族構成、年齢や職業についてたずねる。

14		F が入試に合格したことを受けて友人 L がラオス国立大学について学部などを説明する。	J が友人 L を夕食に誘う。食事場所を相談する。	友人 L と J がレストランでラオス料理を注文し、食事中感想を述べ、最後に勘定をお願いする。	J が友人 L にラオスのお菓子や食べ物についてたずねる。
15		1. 大学生 J と入学準備クラスの F がお互いの教室について話す。 2. 大学生 J と入学準備クラスの F がラオス語の授業について話す。	L が友人 J にルアンパバーンに行った経験をたずねる。 J は行く予定の日にちを述べる。	空港で J が友人 K の海外出張の目的を聞き、お土産を頼む。	大学の食堂で L1 が友人 L2 をピクニックに誘い、運転できるかどうかをたずねる。
16		L1 が郵便局に手紙を出しに行く。郵便局員 L2 からおすすめの送り方を教えてもらって送る。	友人 L が J にルアンパバーン行飛行機の所要時間やチケット購入について説明する。	L が友人 J に体調が悪いと告げる。 J が助言する。	大学で J が友人 L にお正月の予定をたずねる。 L がルアンパバーンの様子を説明する。
17		L1 が銀行で口座を開けし、預金をするため、銀行員 L2 から説明を受ける。	J が電話でホテルの従業員 L にホテルを予約する。	大学で L1 と友人 L2 がラオス語と日本語の難易度を比べる。	大学で J が友人 L に本の所有者をたずね、その人の特徴を L が説明する。
18		お互いに親せきを見舞う友人同士の L1 と L2 が病状や診療科についてやりとりし、一緒に行くことにする。	J がお店で店員 L におすすめのお土産をたずねたり、服を試着する。	L がビエンチャン市内観光について J に場所やスケジュールを説明する。	大学で L が友人 J に何語を勉強したらよいか相談し、 J が助言する。
19		F1 が友人 F2 をバドミントンに誘う。また、いろいろなスポーツ観戦をすることを誘う。	J が友人 L に忘れ物をしたことを告げると L が状況を聞いて助ける	J に頼まれて友人 L がラオスの地方の特徴を説明する。	大学で J と友人 L が好きな食べ物について述べる。
20		友人 L が J に自分が関わっている道路開発事業や北部ラオスの交通事情について話す。	友人 L が J にラオス観光の感想をたずねる。お互いに別れの挨拶をする。	J が日本に帰国するので友人 L にお別れとお礼を述べる。	食堂で J と友人 L が家族の好きな行動や男女の違いについて述べる。
21		F が友人 L に授業で学んだ首都ビエンチャンの内容について話す。			L が友人 J にラープ（料理）の作り方を説明する。
22		L が友人 J にラオスの田舎の良さや特徴について説明する。			路上で L1 と友人 L2 が久しぶりに出会い、職業や近況についてたずねる。
23		L が友人 F に主なラオス料理の特徴、ラオス人の食生活について説明する。			教室で L と友人 J が授業がない場合どうするか相談する。
24		1. L が友人 J に場所や相手に応じたラオス式挨拶について説明する。 2. L が友人 J に目的に沿った服装のマナーについて説明する。			教室で L と友人 J が日本とラオスの気候を比べる。
25		L が友人 F に世界遺産ルアンパバーンの観光地や特徴を説明する。			大学で具合の悪い L に友人 J が医者に行くことを提案する。

③の続き

26	大学でLが友人Jに共通の友人の授業欠席の理由を述べる.	27	ラオス駐在のJがホテルにチェックインする際、ロビー係Lにいろいろ頼む.	28	大学でJが友人Lにラオスの諺の意味をたずねる.	29	場所不明. L1が友人L2と夕食に何を食べるか相談する.
30	オフィスでLが上司Jに仕事の休暇の許可を求める	31	食堂でLが友人Jに大学の制服について説明する.	32	オフィスでL1が同僚L2にドアを開けないでと頼む.	33	自宅で兄L1が妹L2に約束の時間に送れるので急いで行くことを勧める.
34	妹L1が自宅の兄L2に鍵をかけないでと電話で頼む.	35	大学で学生Jが教員Lに宿題を相談する.	36	オフィスでLが上司Jを結婚式に招待する.	37	大学でJが友人Lに日本留学の助言をする.
38	大学でLが友人Jにパソコンを貸してほしいと頼む.	39	大学でLが友人Jに将来の夢を述べる.	40	路上でL1が友人Jに兄L2を紹介する. L2とJ, 初対面の挨拶をする.		

上記の場面对比表(表4)について、場所、登場者の属性と互いの人間関係の順にみていく。

まず場所に関する特徴は、①②、①②③共に大学や職場、ホテル、レストランや市場などの店舗が多いということが挙げられる。さらに詳細にみると、①②は郵便局や銀行など、ラオスで生活する上で必要なさまざまな場所の設定に富んでおり、①②③は空港やお土産店など、一時的にラオスに滞在する上で必須の場所があるということと、場所が未指定という設定が多いことが特徴である。なお、表中で特に言及がないものは室内でも室外でも可能な会話であるということを示している。

次に登場者は、いずれの学習書も大学生以上の学生、あるいは社会人である。1つの会話スキットにつき、人数は2名がほとんどで、3名を超えることはない。また、性別は男性と女性であることが多い。お互いの関係について言えば、①②はラオスに長期滞在するさまざまな国籍の外国人とラオス人という設定が多く、一方の①②③は、ラオスを観光や仕事で訪問、短期滞在する日本人とラオス人という設定がほとんどである。②と②③は少ないがラオス同士のやりとりもある。いずれもほぼ同年齢の友人同士、その次に客と店員という関係が多い。①②③には年齢が明らかに異なる者同士のやりとりもある。③にのみ上司と部下のやりとりが設定されている。

3.3. 言語行動のタスク

前節で挙げた会話の場面を検討すると合計45のタスクが認められる。言語行動のタスクについては東京外国語大学言語モジュールにあるタスク項目と鈴木(2019)を参考にした。これらをさらに「情報のやりとりをする」「人にはたらきかける」「人と付き合う」「考えや感情を述べる」という大分類タスクにグルーピングし、順に緑、ピンク、黄、青に色分けをしたものが表5である。

表5 言語行動タスクの種類

色	緑	桃	オレンジ	水色
類	情報のやりとりをする	人にはたらきかける	人と付き合う	考えや感情を述べる
言語行動のタスク	-金額についてたずねる	-提案する	-挨拶する	-予定を述べる
	-経験についてたずねる	-依頼する	-感謝する	-意見を述べる
	-程度についてたずねる	-許可を求める	-注意をひく	-好きな物・事について述べる
	-時間についてたずねる	-義務を勧める	-自己紹介する	-気持ちを述べる
	-数字についてたずねる	-禁止する	-謝る	-理由を述べる
	-場所についてたずねる	-指示する	-人にものをあげる	-条件をつける
	-特徴についてたずねる	-許可する	-さよならを言う	-妥協する
	-手段についてたずねる	-勧誘する	-情報を求める	-希望を述べる
	-能力についてたずねる	-助言する	-招待する	
	-順序について述べる	-要求する	-人を紹介する	

	-比べる	-話しかける	-ほめる	
	-例を挙げる	-交渉する	-受け入れる	
			-断る	

各学習書の会話内容のタスクを表 5 にもとづいて色分けすると表 6 のようになる。1つの会話に1つのタスクとは限らず、2分割してあるものは、1つのスキットの中に複数個のタスクが含まれている場合や会話のスキットが複数個あることを示している。

表 6 言語行動のタスク

	①	②	①	②	③
1		(文字と発音)			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

表 6 からいずれの学習書も概ねオレンジの「人と付き合う（黄）」類がまず配置され、次に「情報のやりとりをする（緑）」類、そして「考えや感情を述べる（青）」類の順であることがわかる。「人にはたらしかける（ピンク）」類は③のみ後半に、他の4冊は後半に多いが分散して配置されている。

4. 考察とまとめ

4.1. ラオスの学習書と日本の学習書の異同

本節では、ラオスの学習書と日本の学習書の異同を考察する。

まず、会話のタイトルについてはラオス語版①②と日本語版①②③で大きく異なっている。①②では語彙カテゴリーや会話の場所がタイトルになっており、名詞1語であるものが多い。そのことにより、どのような題材、あるいはどのような場所で使用される会話であるかがわかるタイトルとなっている。一方の①②ではメインキャストであるラオスのことを知らない日本人の発話そのものがタイトルになっているためか、ラオス人にたずねる疑問文1文であるものが多い。それはとりもなおさず、その場面で聞き手に最も伝えたいこと、伝えるべき情報であり、換言すれば言語行動のタスクを表している文であるといえる。これは単なる発話そのものではなく、③と同様の言語行動のタスクがよみとれる文である。このことから①②も言語行動タスクそのものをタイトルにしている③もどのようなことを伝えるための会話であるかがわかるタイトルとなっている。

次に会話の場面についても①②と①②③で異なりが見られる。先の3.2で述べたように、①②は大学生活、生活用品の買い物や銀行・郵便局での手続きなど、ラオスで生活する具体的な場所の設定に富んでおり、その題材には衣食住に関するものが多く、日常生活に慣れる意図が組み込まれている。一方の①②③は空港、レストラン、ホテルの他に具体的な場所の明示がない中での初めての経験やモノに対するやりとりが多く、さまざまな場所に応用が利く工夫がなされ、ラオス滞在に慣れる意図が組み込まれている。これらの違いは、当該学習書の対象者や学習する場所がラオスと日本であるという違いを踏まえた「学習しやすさ」を考えれば当然の違いであろう。

このような違いがある一方で、登場者については①②と①②③に大きな違いは見られない。登場者の多くはラオス語を初めて学ぶ外国籍の人とラオス人で、ほぼ同じ年齢の2名である。会話スキットは少ないものの、敢えて相違点を挙げると、①②③には初級段階で習得が難しいといわれている親族名称を人称詞に使用することがわかることを意図して、年齢が明らかに異なる者同士のスキットがある。一方、②には知らない人とのやりとりが入っているが、これは知り合いでなくても目が合ったら話しかけることがよくあるという、ラオス人の帰属文化に対する経験からの内省を学習者に伝えているものと思われる。

言語行動のタスクについては、先の表6の①②と①②⑥の色分布を見ると、両者にある程度の共通点がみとれる。それは、挨拶や自己紹介という「人と付き合う」類がまず導入され、その後に「情報のやりとり」と続き、「考えや感情を述べる」が少なく、比較的難しい構文が多い「人にはたらしかける」類が意外にも早い段階から配置されている点である。謝罪をタスクにしたスキットがないのも特徴的である。

4.2. 言語行動と社会的文化的特質との関連

本節では、ラオス語を学ぶ上でどのような内容や表現を重要視すべきかという観点から言語行動と社会的文化的特質との関連を考察する。なぜならこれまでのラオス語版①②と日本語版①②③の比較検討

⁶ ③について述べないのは、ラオス語だけではなく、他の25言語を横並びにしてリストアップしたタスクの順であるという理由による（3.1参照）。

によって、ラオス語の言語活動が社会的文化的特質と深く連動していることが読みとれるからである。

各学習書において何度も取り扱われているということをもとに社会的文化的特質と連動していると思われる内容や表現を以下に挙げる。

- 1) 初対面の挨拶は、自己紹介よりも相手のことを知るために相手の氏名、出身地(国籍)などをたずねてそれに応えるスタイルをとる。同時に相手をほめる一言を添える。
- 2) 挨拶は「こんにちは」などの定型句と共に「どこ行くの?」「もうご飯食べた?」という行き先や食事が済んだかをたずねる出会いのフレーズを使う。
- 3) 家族構成、居住地、宿泊先、職業など、プライベートなことを初対面など早い段階でたずねる。年齢は直接聞くのではなく、職業や家族構成を聞いて、自分との年齢差を推し測る。
- 4) 親しくなったら、あるいは親しくなるために人称詞に親族名称を使う。けれども並行して中立的な人称代名詞「私・あなた」も使用してもよい。
- 5) 時間、気候など、自分たちの直接的なことではなく、周縁的なことをたずねてお互いを比較し、異同を明らかにする。
- 6) ラオス独特のイベントへの参加を誘う、自宅へ招待する、食事に誘う、家族を紹介するなど、ラオスの人がよく行う行動や自分にとって身近なことを相手に対してはたらきかける。
- 7) 買い物場面には必ず値段交渉を題材にするが、交渉は1, 2回で妥協し、最後は必ず購入するというスタイルをとる。つまり値段交渉は購入することが前提である。
- 8) シン(ラオス衣装)の特徴、服装のマナー、レストランでのラオス料理の食事、住居に関する内容が多く、衣食住についてラオス独特の文化社会を知ることができる。
- 9) 観光地、主要都市を挙げ、ラオス特有の文化やラオス社会について知るようになっている。
- 10) 相手に何かをさせる内容ではなく、自分に何かをさせるという内容で使役表現を学ぶ。
- 11) レストランや食堂での注文とおして依頼や提案の表現を学ぶが、同時に同調する表現、「～てもよい」という婉曲表現、相手と気持ちを共有する表現を学ぶ内容になっている。

これらはいずれも同一学習書の中に何度も出てくる内容や表現で、「親しくなる」「関係を構築する」「情報を得る」「状況を理解する」というコミュニケーション上の社会的文化的方略を意図した学習要件であると解釈できる。①②③にはなく、**①②**のみから抽出されたことは、1)の初対面の際に自己紹介ではなく、相手について知ろうとする姿勢やほめるということ、3)の年齢を推し測ること、6)の自分の好きなことや身近なことを相手にはたらきかけることである。これらはいずれもラオスの社会において「親しくなる」「関係を構築する」するために重要視すべき内容である。3)4)は、年齢を推し測ることによって、相手との上下関係を把握し、正しく親族名称を使って相手との距離を縮めることが意図されている。換言すれば親族名称を使うと相手との距離を縮める効果があることを示している。「親しくなれば皆、親戚」「一緒に行く」「一緒に食べる」ということがラオス社会では大切なこととされていると聞くが、まさに2)から6)はそのような社会的文化的特質が見て取れる内容である。また、4)の中立的な表現も並行して最後の課まで使用してもよいというのは、年齢差や社会的立場がわからない場合は、間違っ使用とかえって失礼にあたり、中立的な表現を使えば失礼にあたらないことを表しており、相手に対する礼節を配慮した語彙使用である。また、7)の値段交渉は全ての学習書でとり上げられていたが、「交渉をして値切る」ことが必要なのではなく、実際には親しくなるためのコミュニケーション上のやりとりのためである。この親族名称の使用と値段交渉の設定は富盛(2019)でも述べられているように、東南アジア諸語の社会的文化的特質としてよくとり上げられている点である。「情報を得る」「状況を理解する」を意図した8)や9)も全ての学習書で扱われている内容である。これらはラオス社会や文化への理解がコミ

コミュニケーションを円滑にする役割の一端を担っていると考えられていることの証である。10)は、文法的には使役であるが、自分の動作について、相手の立場に立った言い方を使う表現は一種の謙譲表現にあたる。ラオス社会で重んじられている相手に対する礼節といった配慮を意図する表現である。11)も依頼や提案表現を学ぶというよりは、婉曲表現や丁寧な表現を学習し、そのことによって礼儀正しい言動で相手に接する意図があると思われる。

上記で述べたことはいずれもコミュニケーションを円滑に遂行し、相互理解を促進するためのものであり、社会的文化的特質を知らなければ理解できないやりとりである。このように考えると、社会的文化的特質はラオス語コミュニケーション能力の獲得・向上にとって重要なことであると言える。

4.3. まとめ

①②と①②③の異同からラオスの学習書は社会文化的知識や異文化適応技能の取得に重点が置かれており、日本の学習書は異文化理解、異なる社会形態の容認に重点が置かれていることがわかった。むしろ、このような違いはそれぞれの学習書の対象者や学習地が異なるということが影響しているであろう。また、出版社の事情や経済的制約があり、割愛しなければならなかったこともある。しかしながらこれらを差し引いても両者の差異を看過することはできない。筆者は2019年にラオス語の社会・文化コミュニケーション能力評価表の作成を試みたが、今回、ラオス人によるラオス語学習書を検討することによって考慮すべき新たな社会的文化的特質を見出すことができた。このことから異文化コミュニケーション能力の指標は、さまざまな教育者の立場を勘案して考えるべきであるという結論が導き出される。さらには社会文化的知識や異文化適応技能を身につけることは、コミュニケーションを円滑に遂行する上で不可欠であり、広い意味での言語技能を身につけることであると言える。

5. おわりに

本稿ではラオス語と日本語で書かれた初級学習書の会話部分を比較し、社会的文化的なコミュニケーション能力に関して、どのような社会的文化的な特質への着眼点が必要か、ということ进行を明らかにすることを試みた。ある異文化社会に属する構成員として身を置いたときに、適切な表現や対応ができる言語能力の獲得のための語学学習は、相互理解と自己表現のために必須であると言っても過言ではなからう。むしろ社会的文化的な特質への配慮が不十分なまま学習言語の当該国に在住し、社会文化に精通していなければ問題が起こるか、という必ずしもそうではないが、ラオス語を学習する上で、ラオス社会や文化を知ることは言語技能の獲得・向上にとって無関係ではない。ラオス語の教育に携わっている一人として、本研究の内容を今後のラオス語教育、学習書作成に活かしたい。

参考文献

- Council of Europe (2001). Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment, Cambridge University Press. (<https://rm.coe.int/1680459f97>)
- Council of Europe (2018). Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment, *Companion Volume with new descriptors*. (<https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989>)
- 富盛伸夫. 2019. 「社会・文化的特質を考慮したコミュニケーション能力評価法をめぐって：アジア諸語版の試み(2018-2019)ーアジア諸語を対象にしたCEFR受容で見えてきたものと捉えがたいものー」, 『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究ー中間報告書2018-1019ー』73-111.
- 富盛伸夫, YI Yeong-il. 2017. 「TUFS言語モジュールを活用したアジア諸語の社会・文化的特質の指標化」

『外国語教育研究』 20: 207-217.

執筆者連絡先: reikos@tufs.ac.jp

本稿は科学研究費助成事業基盤研究 (B) 「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮した CEFR 能力記述方法の開発研究」(2018 年度-2020 年度, 研究代表者富盛伸夫, 研究課題/領域番号 18H00686) の研究成果のひとつとして公開するものである.